

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	北海道	市町村名	札幌市	大学名	
派遣日	令和5年8月8日(火) 13:00~16:45 ・13:00~13:30 講演準備・打ち合わせ ・13:30~14:00 受付 ・14:00~14:05 開会 ・14:05~15:05 福山先生による講演 ・15:05~15:15 休憩 ・15:15~16:05 グループワーク ・16:05~16:20 質疑応答 ・16:20~16:45 連絡、閉会、片付け ※派遣当日の日程を詳細に記入してください。 ※派遣当日の次第、研修実施要項・日程表等、日程の詳細が分かる資料を添付してください。				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="radio"/> 派遣 / <input type="radio"/> 遠隔				
派遣場所	札幌市生涯学習センター ちえりあ				
アドバイザー氏名	出雲市立中部小学校 福山 祐子 様				
相談者	札幌市教育委員会 教育課程担当課 企画担当係				
相談内容	連絡推進会議の講演、さらに、グループワークの企画と運営をご相談させていただきました。講演では、帰国・外国人児童生徒の受入れ体制と日本語指導の授業づくりについて、実践例を踏まえて、講演していただきたいことをお伝えした。また、連絡推進会議には、指導協力者と学校関係者も多く参加することを伝え、それぞれにとって有益となるようなグループワークや交流の企画と運営をお願いした。連絡推進会議前に、福山先生とはオンラインでの打ち合わせを2回行い、準備を進めた。				
派遣者からの指導助言内容	【第1部 帰国・外国人児童生徒の受入れ体制について】 多様な児童生徒を支援するために大切なポイントを3つお話していただいた。 ・日本語指導が必要な児童生徒…一人一人の課題をしっかりと見極めること。日本語と教科の統合学習の支援を進めること。 ・在籍する学校…周囲の児童生徒への指導、保護者、教職員、地域の協働体制の確立。 ・行政…地域性が高い課題として取り組むこと。  【第2部 日本語指導の授業づくりについて】 日本語指導で身に付けたい力や授業づくりのコツについてお話していただいた。 ・学習指導要領「総則」の位置付けについて(第1章第4の(2)海外から帰国した児童や外国人の児童の指導) ・日本語指導の目標は、「児童生徒が日本語を用いて、学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすること」を目的としている。 ・日本語指導で身に付けたい力は、「日本語で考える力」である。				

(様式3)

	<ul style="list-style-type: none"><li>・「日本語で考える力」を身に付けるために、①覚える力、②教科書を読みこなす力、③授業を聞き取る力、④聞いたことを整理する力、⑤分析や組み立てる力を習得する必要がある。</li><li>・対象の児童生徒の日本語力を見極めるための、定期的なアセスメントの実施が必要である。</li><li>・一見、対象の児童生徒が日本語を話せているように見えても、実は日本語の構造を全く理解していないために、授業や問題文の意図が理解できないことがある。そのため、日本語の構造の指導が重要。</li><li>・日本語指導における授業づくりのコツは、①概念（教科の目標に関すること）、②語彙（教科の学習に必要な語彙）、③表現（理解したことを必要な語彙を使って説明）の3つのポイントを踏まえること。</li><li>・この3ポイントを踏まえた、教科（もしくは、トピック）と日本語の統合学習の実践例について、動画を視聴。</li><li>・グループワークでは、この3つのポイントを踏まえた教科と日本語の統合学習の指導について、指導協力者と学校関係者3名1グループで考え、全体で交流し、福山先生からアドバイスをいただいた。</li></ul>
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none"><li>・連絡推進会議に参加していただいた指導協力者、学校関係者からは、大変勉強になったと好評であった。日本語指導の実践例について、具体的な説明と理解を深めるためのグループワークがあったため、すぐ実践したいという声も多く挙がった。</li><li>・今後も、支援を必要としている児童生徒のことを第一に考え、指導協力者や学校関係者、教育委員会が一体となって、支援ができるように、事業を進めていきたい。札幌市は、支援を必要としている児童・生徒が増加しているため、指導協力者や予算の確保、支援の充実に向けて、取り組んでいきたい。</li></ul>

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。